

第4位：合併や予期せぬ事の遭遇

設立前後に市町村合併があり、これをきっかけに休眠状態に陥る。また、支援者（企業など）の予期せぬ撤退や、予定外の出来事・変化などで計画通りに進まなくなり、クラブ設立が立ち行かなくなった。

アドバイス①

クラブ自身が体力をつけ、行政や支援者に価値を示す努力を続けましょう

市町村合併に伴う行政歳出削減による補助金減額や、経済状況の悪化等による支援者の撤退は予定外ではなく、すでに十分起こりうる出来事です。このような状況下においてクラブがとるべき行動には大きく2つの方法があります。

1つ目はクラブ独自で財源基盤となりうる事業を行い、お金と人をやりくりすることのできるクラブの体力をつけておくことです。しかしながらこれはすぐに達成できるとは限りません。時間をかけて知恵をしばり、地域のニーズにあったプログラムを構築していく努力が必要です。

2つ目にはクラブのミッション、ビジョン（将来構想）、実績をきちんと整理し、行政や支援者とのパートナーシップを構築することです。行政のスポーツ振興ビジョンや支援者である企業等の地域貢献戦略に組み込まれるような双方にとってメリットとなる提案が必要です。

上記2項目のどちらか片方だけでなく両者をバランスよくマネジメントすることが重要です。

（榎 敏弘：中央企画班員・地方企画班長、
NPO法人クラブレッツ ゼネラルマネジャー）

アドバイス②

熱意をもって行えば乗り越えられます。柔軟に対応することも大事です

私の知っているクラブでも、設立前後に市町村合併により、休眠状態に陥ってしまったという状態が起きました。後一步で設立というところで吸収合併に遭い、一度、総合型クラブの話が頓挫してしまいました。

しかし、その時のキーマンや、その方をとりまく人々に強い思いがあったため、合併後の担当局に何べんも通い、設立にこぎつけました。設立記念式典には、市長までが来賓で挨拶をされ、しかも総合型クラブの内容もよくわかっていらっしやいました。

わたしが感じたのは、やはり、作る方の熱意だけだと思います。一度は頓挫した話も、人が熱意をもって行えば乗り越えられることを、実感させられました。

また、予期せぬことや計画通りに進まないこともあります。私どものクラブもある程度大きな計画は進みますが、細かな計画を立てるほど計画通りには行きません。

なぜなら、スタッフは素人で、話し合う時間もそれ程なく、イベントや事業に突入していく場合が多いからです。そのためスタッフの意識統一もバラバラなのが当たり前のことです。

計画通りに進めようと思えば、何回も会議を開く必要が出てくるなど無駄な時間を掛けることとなります。これを回避するには、「柔軟に対応できるスタッフが何名いるか」が鍵です。

計画も大切ですが、このようなスタッフの育成の方が、大きなウエイトをしめると思います。

若く、元気の良い、次の世代を担う人を育てましょう！

（関口昌和：地方企画班員、どんぐりクラブ屋台村 理事）